

令和3年度
宮城県障害者芸術文化活動支援業務

報告書

ウェブサイト公開用

特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン

■東北事務局

980-0804 仙台市青葉区大町2丁目3-22 第五菊水ビル3階

tel:070-5328-4208 fax:022-774-1576

mail:soup@ableart.org URL: soup.ableart.org

■東京事務局(法人本部)

101-0021 東京都千代田区外神田6-11-14 アーツ千代田 3331 #208

tel:03-5812-4622 fax:03-5812-4630

令和3年度宮城県障害者芸術文化活動支援業務

1 業務目的

多様な価値を尊重し、他者との相互理解を進めるという機能を有する芸術文化に障害者が取り組むことは、障害者の自立や社会参加を促進する上で、重要な活動の一つである。本事業は、さまざまな障害者が芸術文化を享受し、多様な活動を行うことができるよう、地域における障害者の芸術文化活動(以下「芸術文化活動」という。)を支援し、障害者の自立と社会参加を促進することを目的とする。

2 対象分野

宮城県内の自宅、学校、福祉施設、文化施設、社会教育施設、民間の教室等、地域の多様な場で行われる、美術、音楽、演劇、舞踊などの多様な芸術文化活動に対する支援を行う。

3 業務内容

芸術文化活動を行う障害者本人やその家族、福祉施設、文化施設、支援団体等(以下「事業所等」という。)を支援する拠点「障害者芸術文化活動支援センター」(以下「支援センター」という。)を設置し、「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画」(平成31年3月文部科学省・厚生労働省策定。以下「障害者文化芸術活動推進基本計画」という。)に定める施策の方向性を踏まえ、実施する。

(1) 相談支援

■相談窓口の設置(通年)

芸術文化活動を行う障害者本人やその家族、福祉事業所や地域のアトリエなどで障害者の芸術文化活動を実施する人たちからの相談に対し、次の方法・体制・内容・方法で対応した。

□相談の方法	(i)電話、FAX、メール、対面でのヒアリング (ii)研修会および展示会における相談受付
□相談の体制(人員・勤務)	・東北事務局3人(常勤2/非常勤1)、東京事務局1人(非常勤1) ・月～金の10時～18時を受付時間とする。窓口担当が不在時は、相談者の連絡先をきき、担当者が折り返し連絡し対応。
□相談の範囲と対応時の連携	・支援方法、創作環境の整備、権利の保護、鑑賞支援、作品の販売・公演、記録・保存、地域・国際交流等に関する相談。 ・相談への対応にあたっては、必要に応じて専門家アドバイザーを活用し、関係機関や専門家の紹介や専門的知見によりアドバイス等を実施。

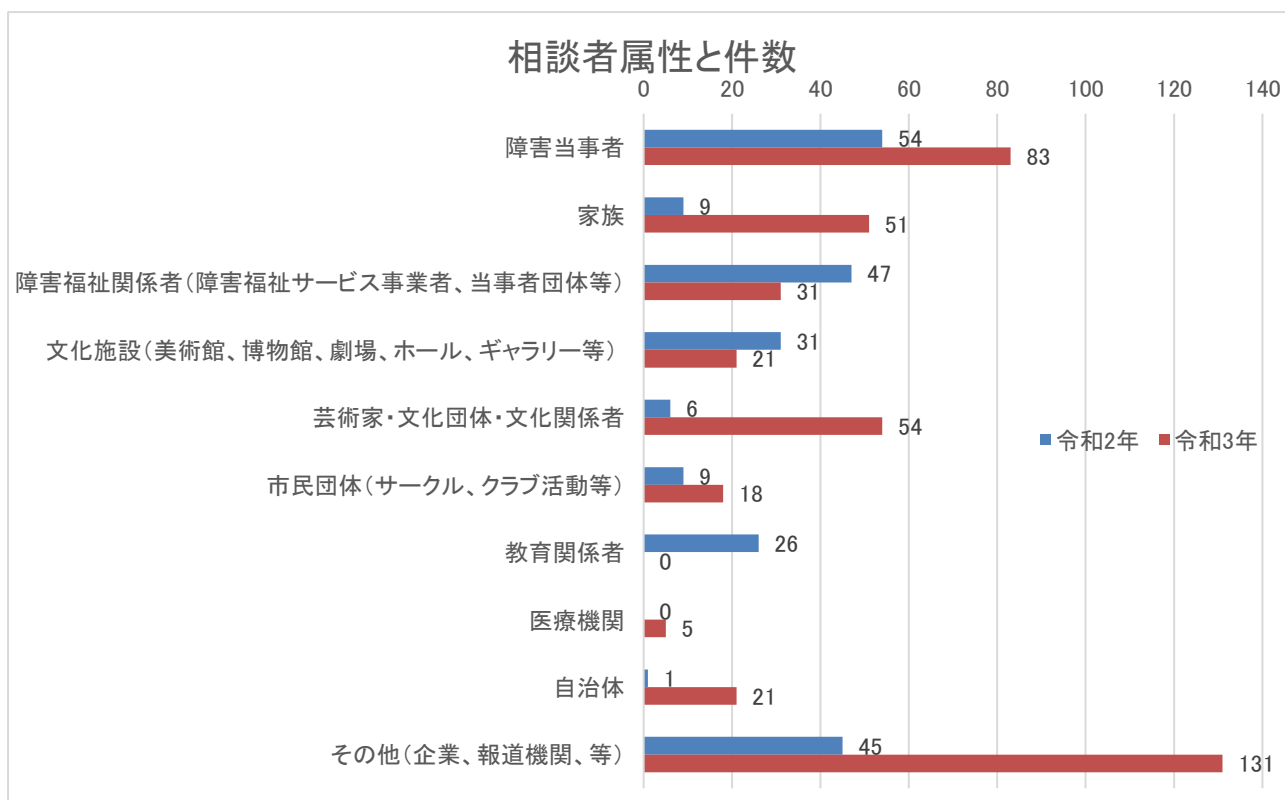
■相談データ(実績:令和4年3月31日時点)

全国連携事務局より示された全国統一のカウント方法に準じる。

□相談者	宮城県内のべ 50 個人/団体、宮城県外のべ 60 個人/団体 合計 110 個人/団体
□相談件数	相談件数 107 件 相談回数 415 件(前年度 228 件 /前年度比 182%) ※相談件数 寄せられた相談につき 1 件とカウント ※相談回数 電話やメールなど、相談対応ごとに 1 回とカウント
□特記	<ul style="list-style-type: none"> ・相談者の属性は、例年通り、障害者本人や家族からの問い合わせが多い(コロナ禍の漠然とした不安、作品をみてほしい、活動の場所を探している)。 ・「県政たより」に支援センター問合せ窓口が掲載されると、気仙沼市や松島などの地域の在宅の障害者や相談支援従事者からの問い合わせが複数あった。 ・芸術文化関係者から連携を求める相談、企業やメディアから作品の 2 次利用についての相談が増えている。 ・相談の回数が飛躍的に増えた要因は、常勤スタッフ 2 名の体制になり、相談の対応に緻密に応えられたことと推測する。

□相談者属性

項目	令和 2 年	令和 3 年
障害当事者	54	83
家族	9	51
障害福祉関係者(障害福祉サービス事業者、当事者団体等)	47	31
文化施設(美術館、博物館、劇場、ホール、ギャラリー等)	31	21
芸術家・文化団体・文化関係者	6	54
市民団体(サークル、クラブ活動等)	9	18
教育関係者	26	0
医療機関	0	5
自治体	1	21
その他(企業、報道機関、等)	45	131
	228	415



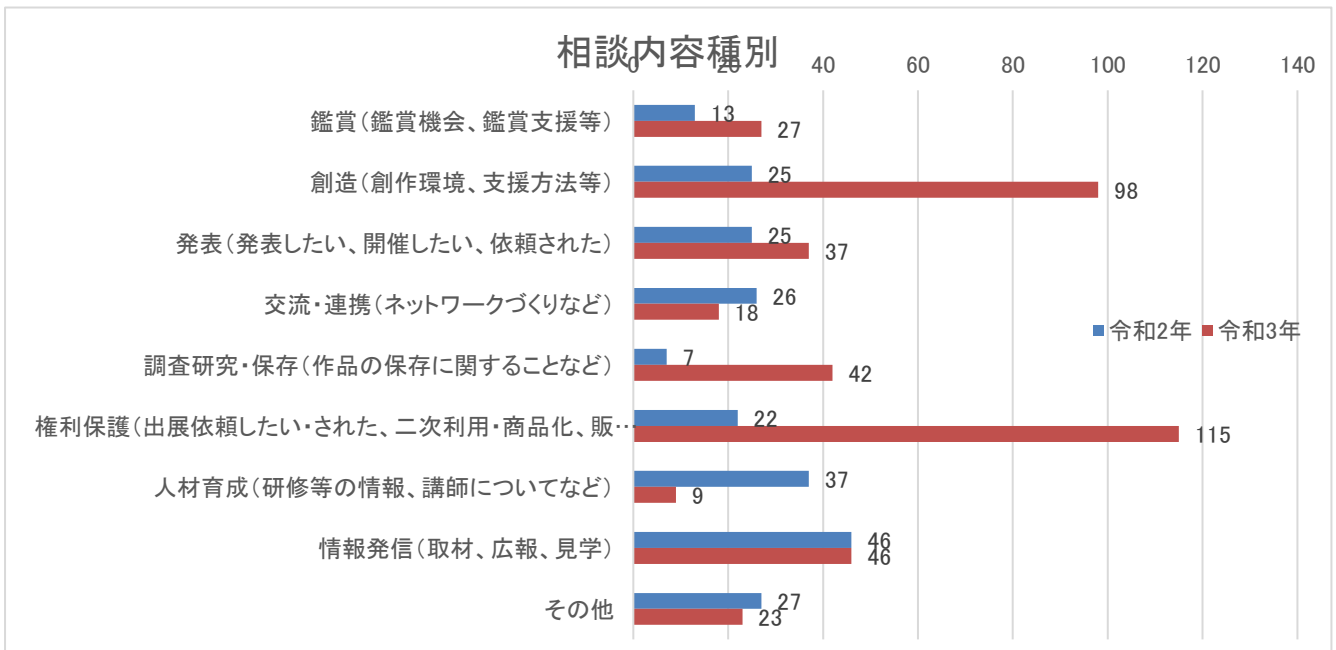
□分野

項目	令和2年	令和3年
美術	74	218
音楽	5	7
演劇	0	5
舞踊	13	4
その他	86	4
分類できないもの	50	177
	228	415

□相談内容種別

項目	令和2年	令和3年
鑑賞(鑑賞機会、鑑賞支援等)	13	27
創造(創作環境、支援方法等)	25	98
発表(発表したい、開催したい、依頼された)	25	37
交流・連携(ネットワークづくりなど)	26	18
調査研究・保存(作品の保存に関する事など)	7	42

権利保護(出展依頼したい・された、二次利用・商品化、販売、寄託・寄贈、作品の取扱全般、成年後見制度等)	22	115
人材育成(研修等の情報、講師についてなど)	37	9
情報発信(取材、広報、見学)	46	46
その他	27	23
	228	415



(2) 芸術文化活動を支援する人材の育成等

□平成31年度および令和2年度の報告書に記載された課題・特記をもとにプログラムを作成した。

- ・芸術文化活動に取り組む福祉事業所向のステップアップ編(アートの売買や商品化等における権利保護、工賃支払い規程への考え方等):1回
- ・重度の障害のある人(身体障害・知的障害等)の支援活動の方法に関するもの:1回
- ・支援センターのネットワークが弱い広域大崎圏域、広域仙台都市圏域・東部/北部での活動:2回
- ・支援センターの相談が極端に少ない「音楽・演劇・舞踏」に関する領域の活動:1回
- *新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、研修をオンライン配信のハイブリッド型にて実施
- *「音楽・演劇・舞踏」に関する領域の活動は、厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業との連携事業として実施

内容	日程・会場	講師、案内役等	参加者数	参加者所属等(★印は SOUP の研修初参加)
第1回 アートと工賃支給規程	2021/7/21 講師は奈良から オンライン出演 仙台市市民活動サポートセンター 研修室5 & オンライン	三輪竜郎(Good Job!センター香芝副センター長)	会場 7 人 オンライン 16 人	manabyCREATORS 仙台★、NPO 法人ワンダーアート、ソーシャルビレッジ仙台(多賀城)★、工房すぴか、あつぶるぶらす(石巻)★、わらしべ舎羽黒台工房、アートインクルージョンファクトリー、多夢多夢舎中山工房 NPO法人ぞうさんの家、就労A型・B型なでこ★
第2回 重度の障害のある人と芸術文化活動	2021/8/23 Wonder Art Studio(ワンダーアートスタジオ) (仙台市)&オンライン	高橋雅子(ホスピタルアーティスト)	会場 9 人 オンライン 11 人	塩竈市杉村淳美術館★、ボーダレスアートBAC、社会福祉法人わらしべ舎羽黒台工房、石巻祥心会よつば事業所、石巻祥心会第二ひたかみ園・むつみ学園★、個人(美術家)
第3回 芸術文化活動を<生涯学習>の視点からとらえてみよう	2021/10/19 交ゆう館奏海(登米市)	太齋京子(NPO 法人奏海の杜代表)	会場 9 人	UNIVER-CITY SEND-AI★、NPO法人ポラリス、きおつちよら★、ビートスイッチ、せんだいメディアテーク★、個人(元公民館館長)
第4回 ひろがる世界・ひろがる私<美術館>に行こう!	2021/11/11 塩竈市立杉村淳美術館(塩釜市)	阿部沙斗加(学芸員)	会場 16 人	ソーシャルビレッジ仙台(多賀城)★、個人(生涯学習支援関係者)
第5回 インテグレイテッド・ダンス・カンパニー響-Kyo の公演を観よう	2022/12/02 イズミティ 21 2022/12/02 イズミティ 21	ゲネプロ公開 公演	98 人 96 人	アート・インクルージョン、はまゆう、己達会 hikari★

【特記】

・ウェブサイトに詳細を記載

<https://soup.ableart.org/program/2021%e5%b9%b4/training2021/>

・工賃支給規程に関する講座は予想を超える参加者数だった。

・コロナ拡大時期のため、参加者からオンライン併用へのニーズがあり対応した。令和2年度は、研修の主たる対象者である福祉施設がオンライン会議に参加できるインフラが整っていなかったが、令和3年度はインフラが飛躍的に改善されていた。

・登米市や塩竈市などの地域での活動、かつ生涯学習に関するテーマや鑑賞に関するテーマは、まだまだその

意義や価値が浸透できていない感がある。

・「音楽・演劇・舞踏」に関する活動には、山形県や福島県の支援センター等職員の参加があり次年度につながるものとなった。

(3) 関係者のネットワークづくり

■研修との連携や新たなネットワーク形成

・前年度の会議で、ネットワークの空白地域として「広域大崎圏」「広域仙台都市圏域/北部・東部」があげられた。そのため、意識的にこれらの地域を研修の実施地域に設定し、活動の広報や顔のみえる関係づくりに注力した。塩竈市での活動においては、塩竈および多賀城の関心層の団体へアプローチし、研修などの参加につながった。

・今年度も、文化芸術活動を生かした福祉サービス事業所や文化団体との新しいネットワークづくりや連携に取り組んだ。具体的には、ソーシャルビレッジ仙台(多賀城市)、塩竈市杉村惇美術館(塩竈市)、NPO法人きおっちよら(仙台市)、manabyCREATORS 仙台(仙台市)等。

■令和3年度宮城県障害者芸術文化活動支援業務／協力委員会(以下、宮城県協力委員会)の実施

日時:2021年11月15日 10:00-11:45

会場:宮城県自治会館会議室

仙台市および宮城県の障害のある人の福祉・文化芸術・教育などの関係者が集まり情報交換を行うもので、本事業の共催団体である仙台市ならびに仙台市市民文化事業団にも出席いただいた。国の施策の確認をしながら、各団体からも活動や問題意識を語っていただき情報共有を行った。加えて、「第4回障害と芸術文化の大見本市」(2022年2月4-8日)に向けた広報の連携依頼を行った。

- 宮城県消費生活・文化課文化振興班
- 宮城県生涯学習課社会教育支援班(社会教育主事)
- 仙台市文化観光局文化スポーツ部文化振興課文化振興係
- 仙台市健康福祉局障害福祉部障害企画課社会参加係
- 仙台市教育局生涯学習部生涯学習課企画係
- 公益財団法人宮城県文化振興財団 事務局長兼総務管理課長
- みやぎ NPO プラザ館長
- 宮城県障害者福祉センター施設長
- 公益財団法人仙台市市民文化事業団総務課
- 宮城県障害福祉課 地域生活支援班

■その他のネットワーク、情報交換等

・仙台市文化プログラム(年10回のアトリエ&スタジオ事業)の参加者(家族等)に、本事業の研修等の情報提供を行った。SOUPへの相談に寄せられる相談のうち、精神障害の人が参加できるオープンアトリエは資源が少ないため、結果的に、仙台市文化プログラムに参加する事例などが複数あった。

・障害者の生涯学習事業(共催:仙台生涯学習課)における年3回の連携協議会にて、本事業の情報を共有し

た。連携協議会の構成団体は、仙台生涯学習課、仙台市特別支援教育課、仙台市障害企画課、東北大学、みやぎ生協、仙台市市民活動サポートセンター等。また、生涯学習事業の参加者である障害のある人たちやボランティアにも、年8回のワークショップ/講座、年1回の成果発表会/フォーラムを通じて本事業を共有した。

(4) 発表の機会の確保

■催事名:第4回 障害のある人と芸術文化活動に関する大見本市
きて、みて、して、見本市。

■日程:日時:2022年2月4-8日 10:00-18:00

■会場:せんだいメディアテーク オープンスクエア

会場では、①「障害と芸術文化のブース」②「ニューカマーセ ブン」③「SHIRO Atelier&Studio-ともにつくる芸術劇場-」④「としょかん・メディアテークによるバリアフリー資料展示」という4つの構成で展示を行った。また、⑤「障害のある人と生涯学習」をテーマにしたフォーラムをせんだいメディアテーク7階スタジオシアター及びオンライン(YouTube)で開催した。

- ① ②令和3年度宮城県障害者芸術文化活動支援業務
- ③ 仙台市文化プログラム(共催:仙台市、仙台市市民文化事業団)
- ④ 主催:仙台市民図書館、せんだいメディアテーク
- ⑤ 文部科学省令和3年度「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」(主催:特定非営利活動 法人エイブル・アート・ジャパン、共催:仙台市教育委員会、せんだいメディアテーク)

		実施日	関連プログラム	手法	参加人数	来場者数	備考
見本市	障害と芸術文化のブース	2022/2/4-8	宮城県全域からの情報コーナー	障害と芸術文化に関する団体の活動紹介	16 団体	-	宮城県障害者芸術文化活動支援業務
			ひだまりのギフト展ポップアップショップ	アート&クラフト&スイーツ販売	13 団体	-	
	ニューカマーセ ブン		* 2/5 のツアーに1名発表	まだ作品を発表したことのない作家7人の作品を展示	7 人	-	
	SHIRO Atelier&Studio-ともにつくる芸術劇場-			造形作品の展示と映像ドキュメントの上映	12 人	-	

	としょかん・メディアテークによるバリアフリー資料展示		-	-	-	-	主催:仙台市民図書館、せんだいメディアテーク
1 日目	2022/02/04	-	-	-	285		
2 日目	2022/02/05	13:00~ 「みんなでつくるよ広場の人形劇」パレード	パレードは中止。18歳以上の参加者のみでパフォーマンスを実施	会場及びオンライン(Zoom 配信)	30	630	* 仙台市文化プログラム
		14:00~ 「アトリエつくるて」ギャラリーツアー					
3 日目	2022/02/06	14:00~ 15:00 「スウプノアカデミア成果発表会」	会場及びオンライン(Youtube 配信)	(関係者のみ・一般参加中止)	・会場参加者数: 49人 ・ライブ配信最大同時視聴者数: 65人	684	* 文部科学省
		15:20~ 17:00 「障害のある人の障害学習を考える」フォーラム					
4 日目	2022/02/07	-	-	-	224		
5 日目	2022/02/08	-	-	-	274		
			合計		2,097		

■特記

・ウェブサイトに詳細を記載

https://soup.ableart.org/program/2021%e5%b9%b4/4th_mihonichi/

・協力委員会の実施により、第4回目にして、ようやく充実した広報活動を実施できたと考える。

宮城県と仙台市の行政と連携し、特別支援学校や特別支援学級の児童・生徒、障害福祉施設・各種相談支援センター、図書館・文化施設・生涯学習施設など福祉・文化芸術・生涯学習などの関連機関に、合計1万枚のチラシを配布したほか、一斉メールやウェブサイト、SNSを通じた広報を行った。

・コロナ禍で、宮城県と仙台市では子どもたちが参加する部活動などの開催が回避され、見本市そのものを開催していかぎりぎりまで宮城県と仙台市と協議した。感染対策をして開催した「第4回障害と芸術文化の大見本市」では、5日間で2000人を超える人が来場し、またクラスター発生の現象もなく安堵している。

・宮城県/仙台市の特別支援学級および特別支援学校(高等学園舎)の生徒による「私たちの作品展」と同時期開催とし、障害児とその家族、支援学校教員などに、中間支援組織やその役割について認知していただく機会としたが、学校や学級単位の見学会は中止されていたため、土日の家族による自主来場に限られた点が残念。

・オンラインによる活動は、感染防止に資する、遠隔から参加できる、見る側は移動時間や旅費を節約できる、多くの人と交流できるなど利点も多い。そのため、フォーラムは令和2年度同様、オンライン併用開催とした。

(5)情報収集・発信

■周知・広報

・相談窓口があることの周知のために、ラジオ・新聞・他印刷物への掲載、研修および展示の広報として福祉事業所へのチラシ送付など、宮城県障害福祉課と協力して行った(平成30年度より継続)。

・仙台市域の福祉事業者への広報活動は、仙台市障害者自立支援課を窓口として連携をはかった。

・ウェブサイトを設け、「活動内容」「お知らせ」「問い合わせ」「宮城のアトスペース情報」の各項目を備え情報を更新した。とくに「お知らせ」では、研修や展示会の告知・報告を掲載した。常勤スタッフが1名増えたため、記事投稿数は令和2年度の2倍ちかくとなった。

・「県政たより」に支援センターの情報が紹介されたことにより、当事者による電話相談、ボランティア活動に関心のある県民からの問い合わせがある。必要な支援や、支援センターの活動への参加を促した。

■広報・情報発信にかかるデータ

	<ウェブ媒体>	投稿数	アクセス数 (2021年4月～2022年3月)	
広 報	・ホームページ(東北) http://soup.ableart.org/	42		22,308
	・ホームページ(法人本部) http://www.ableart.org/index.html	37		67,872
	・Facebook(東北)	123		30,054
	・Facebook(法人本部)	133		97,060

・Youtube チャンネル	3	904
<紙媒体>	障害と芸術文化の大見本市チラシ	
・学校(仙台市管轄)	仙台市特別支援学校・特別支援学級:生徒数 3,240 人	
・学校(宮城県管轄)	宮城県特別支援学級:児童・生徒数 2,345 人、宮城県特別支援学校(幼稚部、小・中・高校)・私立含:生徒数 2,433 人	
・福祉、文化、教育関係機関(宮城県)	仙台市内福祉施設 388 件、宮城県内福祉施設 535 件(それぞれ行政より最新データ入手後絞り込み)	
・行政、美術館、図書館等文化施設(仙台市)	仙台市市民文化事業団関連文化施設への設置、仙台市市民活動サポートセンター「骨プロ」を利用した広報 1 回	
<紙媒体>	響-Kyo 仙台公演チラシ	
・特別支援学校	宮城県特別支援学校(幼稚部、小・中・高校)・私立含:26 校 仙台市特別支援学校:3 校	
・学校(ダンス部)	宮城県内でダンス部を擁する学校:6校	
・福祉関係機関(宮城県)	宮城県内全福祉事業所にメール送付(宮城県障害福祉課と連携)、南東北・北関東ブロックの各支援センターにチラシ送付	
・行政、美術館、図書館等文化施設(宮城県)	宮城県内各文化施設への設置(ホール、美術館、ギャラリー、公演折り込みなど)21ヶ所 宮城県内のダンススタジオ、ダンススクールへの設置 44ヶ所	

取材・掲載	障害者芸術活動支援センターの活動全般	県政だより1、市政だより1、河北新報1(2021/11/8)、厚労省 障害者芸術文化活動普及支援事業(ウェブサイト)、東北放送1
	アトリエ&スタジオ	仙台市市民文化事業団(ウェブサイト・随時)
	スウプノアカデミア	市政だより1、河北新報 2(2021/8/23,2022/3/14)、せんだいメディアテーク(ウェブサイト)、日本 NPO センター(ウェブサイト)、華為技術日本株式会社(ウェブサイト)
	障害と芸術文化の大見本市	市政だより1、河北新報 1(2022/2/5)
	響-Kyo 仙台公演	河北新報1(2021/11/30)
	NPO 法人エイブル・アート・ジャパン活動全般	読売新聞1(2021/9/28,12/28, 2022/1/24:エイブルアート・カンパニーの取り組み)、業界新聞 7 誌(企業とのスカラシップの取り組み)

(6)その他

宮城県在住の障害者アーティストの、国内外の展示発表・2次利用等の支援に係る取組

<p>展覧会への出展サポート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本博東北会場展覧会「日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバル in 東北ブロック」(2021/10/16-10/24、盛岡市): 絵画 浅野春香・奏(仙台市)、パフォーマンス 2組(仙台市) ・東京都現代美術館渋谷公園ギャラリー展覧会「線のしぐさ」(2022/4/23-6/26、東京都渋谷区): 彫刻 松浦繁(大河原町) ・ベトナム tohe による自閉症啓発国際展「チャムチャム展」(2022/3/26-4/7、ハノイ): 紙芝居 清水敬太(仙台市) ・宮城山形交流事業「みやぎ・やまがたニューカマー2022」展(2022/3/18-4/30/ぎやらりーら・ら・ら、山形市): 絵画 鈴木達郎(仙台市)、日下真由美・渡辺克夫(山元町)
<p>2次利用・商談仲介</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東北労働金庫宮城県本部による労働組合大会冊子表紙への採用 2件: 絵画 浅野敬志(石巻市)、阿部鉄平(仙台市) ・東北労働金庫宮城県支部によるノベルティ(クリアファイル)への作品採用: イラスト 清水敬太(仙台市) <div data-bbox="1145 752 1422 1126" data-label="Image"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・仙台市障害企画課による障害理解啓発による広報(ウェブメディア)での作品採用: イラスト シートン大友(山元町) ・第一クリエイティブによる年賀状(2021年)への作品採用: イラスト シートン大友(山元町) <ul style="list-style-type: none"> ・華為技術日本株式会社による「ファーウェイ 東日本大震災 IT 支援プロジェクト」の報告書での作品採用 2件: 絵画 國分悠太・奏(仙台市) <div data-bbox="943 1205 1433 1458" data-label="Image"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・仙台市市民文化事業団による「第8回仙台国際音楽コンクール」の公式オリジナルグッズの制作に作品採用: イラスト マッチ(仙台市) ・TOKYO FM「サステナデイズ」4月の作品紹介に作品採用 4件: 絵画 浅野春香・奏(仙台市)、牧稔(山元町)、大竹徹祐(亶理町) <div data-bbox="1129 1487 1412 1946" data-label="Image"> </div>

■商品販売

- ・せんだいクラシックフェスティバル 2021 での商品販売(3 日間で約 30 万円)
- ・ひだまりのギフト展(「第 4 回障害と芸術文化の見本市」会場)(5 日間で約 50 万円)



■仙台市文化プログラム「SHIRO Atelier & Studio —ともにつくる芸術劇場—」

主催：特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン、共催：公益財団法人仙台市市民文化事業団、仙台市
・ウェブサイトに詳細を記載

<https://soup.ableart.org/program/2021%e5%b9%b4/shiro-atelier%ef%bc%86studio2021/>

■令和 3 年度「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究」

主催：特定非営利活動 法人エイブル・アート・ジャパン、共催：仙台市教育委員会、せんだいメディアテーク
・ウェブサイトに詳細を記載

https://soup.ableart.org/program/2021%e5%b9%b4/soup_academia2021/

4 事業実施に係る反省点、今後の課題

(1) 宮城県文化芸術振興ビジョンによる「文化芸術活動」の意義の理解促進(新規)

宮城県においては、文化芸術活動は才能ある人の、高尚な活動というイメージがまだまだ強い。第 3 期宮城県文化芸術振興ビジョンに示された視点を支援センターが行う事業にも活かしながら、これまで活動に参加してこなかった障害者や支援者、福祉事業者等へのアプローチとしたい。

●文化芸術は、人々に楽しさや感動、精神的な安らぎや生きる横路美をもたらし、豊かな人間性を養い、想像力や感性を育むなど、人が人らしく生きるための糧となるものです。

●文化芸術が生み出すコミュニケーションは、人と人を結びつけ、相互に理解し、尊重し合う土壌を提供するものであり、人々が協働し、共生する地域社会の基盤となるものです。

●文化芸術が新たな需要や高い付加価値を生み出し、多くの産業の発展を担う側面を持っているとともに、地域経済の発展に寄与する可能性を持っています。

●文化芸術の交流を通じて、国内外の地域と互いの文化芸術を理解し、尊重し、多様性を認め合うことは、平和の礎となり、相互理解の促進や地域の活性化につながるものです。

(2) 空白地域の解消・支援者側の視点の転換に向けた活動の必要性(再掲)

平成 31 年度の報告書からは、広域大崎圏域、広域仙台都市圏域・東部／北部で、活動が弱く、またネットワークのハブになるような団体が存在しないことが明らかになっていた。令和 2 年度と令和 3 年度は、コロナ禍のなかでも可能な範囲で、研修とその準備作業を通じて新たなネットワークを築くことができた。ただし、パートナーシップを形成するには 3 年はかかるというのが実感であるため、引き続き積極的な働きかけを行う。また県の西側の地域の活動の参画者およびネットワークは依然として弱い。

大分県などでは、行政などが主催する障害者の権利擁護をテーマとした研修会、相談支援専門員の勉強会、各福祉事業所のサービス管理責任者の情報交換会などで、障害者の芸術活動支援センターの活動が紹介され、より多くの当事者や家族に情報が提供されている。宮城県との協議をすすめ、本支援センターの周知にかかる協力をお願いしたい。

(3) 支援センターのガイドライン・弱点の強化(再掲)

ガイドラインにおける活動のコツで、当支援センターとネットワーク団体があまり実施できていないのは以下のようなものだったが、令和 2 年度と令和 3 年度は、これを解消すべく研修や見本市の関連事業を設計した。引き続き、事業のバランスをはかり活動したい。

・B3:障害者の芸術文化活動に対する社会的認知を高めるための活動

活動のコツ:「対話型鑑賞などの実施」

・D1:地域住民が芸術文化活動を通して障害者と交流できる場をつくるための活動

活動のコツ:「保育園、幼稚園、学校(特別支援学校・学級を含む)等を訪問し、児童・学生が障害者の芸術文化活動に触れられる機会をつくる」、「障害者と様々な分野の専門家(芸術家等)が共同して作品制作に取り組めるよう支援する」

(4) 福祉・文化・教育・労働 分野を超えた有機的な連携へ

支援センターの相談から、引きこもり状態から脱却した人(精神障害者)がいた。また、相談支援員の紹介から企業就労者(障害者)が生涯学習のプログラムに参加し、のちに芸術文化活動への参加の機会を得たなどの事例もあった。

福祉・文化・教育・労働など、官民ともにさまざまな機関が連携することで、孤立した人や、仲間づくりの機会が少ない障害者が、社会参加し生き生きと活動する事例をみていると、この支援センターの役割を自覚することができる。令和 4 年度はさらに、生涯学習からのアプローチとして社会教育施設や社会教育主事の職員、支援学校教との活動が活発化していく。宮城県全域の障害者の芸術活動に関わるネットワークハブとこれを共有し、実践活動をさらに促進したいと考えている。

6. 事業の収支精算書

* 省略